

地球の未来をこわす環境問題

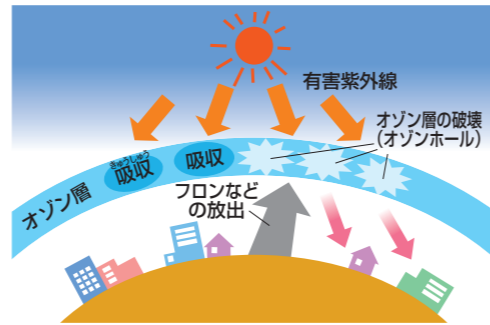
わたしたちは、たくさんのエネルギーを使ってゆたかな生活をしています。その結果、地球温暖化だけでなく、海洋汚染、オゾン層破壊などの環境破壊が進み、地球はボロボロになってきています。このえいきょうはすでにわたしたちの身の回りに出始めています。このまま環境破壊が進むと、地球の未来はどうなるのでしょうか。

オゾン層破壊

太陽の光の中には、有害な「紫外線」がふくまれています。この紫外線は、目に見えない光で、少しの量を浴びるだけなら日焼けですみますが、浴びすぎると命を落とすくらい有害です。わたしたちが紫外線のえいきょうを強く受けませんでいるのは、「オゾン層」という地球のバリアのおかげです。しかし、わたしたちの生活によって、オゾン層が破壊され、有害な紫外線が地球にとどくようになってきています。

原因

オゾン層はフロンガスなどの化学物質によって破壊されています。フロンガスは、スプレーを出すためや、冷蔵庫やエアコンを冷やすために使われています。オゾン層は地上約10~50キロメートルにあります。フロンガスは空気中に出ると10年以上かけてゆっくりと上昇してこのオゾン層をこわします。今では日本をはじめ多くの国でフロンガスの生産をやめました。過去に作られた冷蔵庫やエアコンの中など、わたしたちの身の回りにはまだまだフロンガスが残っています。今わたしたちがフロンガスを空気中に出さないようにしなければ、10年以上先までえいきょうが出てしまうのです。



えいきょう

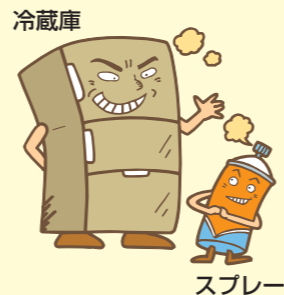
- めんえき機能が低下する
- 皮ふや目の病気になる
- 陸地や水中の生態系に悪いえいきょうが出る
- 植物が元気に育たなくなる

対策

- フロンガスを空気中に出さないようにする
 - フロンを使っているものをすするときは法律で定められた方法でする。
 - フロンを使っていない製品を選ぶ。
- 紫外線から体を守る
 - 日がさや帽子、衣服などを使う。
 - 日焼け止めクリームを使う。

代替フロン

オゾン層を破壊するフロン（「特定フロン」）は1980年代から規制が始まり、かわってオゾン層を破壊しない「代替フロン」が使用されるようになりました。しかし、代替フロンはオゾン層を破壊しないものの、二酸化炭素の数十倍から10,000倍以上の大きな温室効果があります。代替フロンの排出量は近年増加傾向にあり、2020年の排出量は2013年とくらべて61%もふえています。フロンを空気中に出さないために、フロン類を使用する機械はきちんと管理し、適正に廃棄する必要があります。



森林破壊

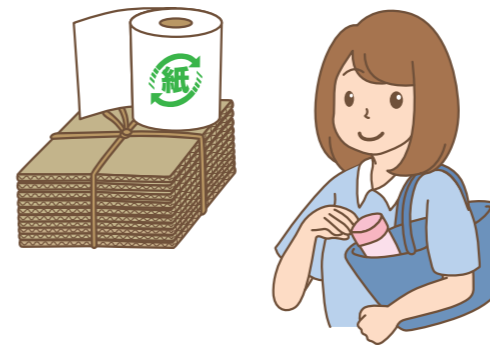
森林にはたくさんの役割があります。水をたくわえ、土がくずれないようにしたり、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を吸収したり、生き物がくらす場所になります。世界には森林が約40億6000万ヘクタール（陸地の約31%）ありますが、世界の森林は減少を続けており、特に森林全体の半分をしめる熱帯を中心に減少面積が大きくなっています。

原因

森林破壊の原因はさまざまです。世界の人口増加によって必要な食料やエネルギーの量がふえたため、森林を農地などの他の使い方に変えていることが主な原因とされますが、他にも、多くの木をむやみに切ったり、焼いたりすることで森林は減少しています。日本は国土の約3分の2が森林ですが、安い外国産の木材を多く輸入しています。わたしたちの生活のために世界中で木が切られており、世界の森林減少はわたしたちにもせきにんがあるのです。

えいきょう

- 二酸化炭素がふえ、地球温暖化が進む
- 生物多様性の消失や生き物のぜつめつにつながる



対策

- 紙を節約、再利用する
 - 紙はうらも使う。
 - 紙をすするときは、リサイクルできるよう分別して出す。
- 使いすぎるものはなるべく使わない
 - マイはしや水筒を持ち歩く。
- 製品を選ぶ
 - リサイクルされた製品を選ぶ。
 - 国産木を使った商品を選ぶ。
 - 適切に管理された森林から作られた製品を選ぶ。



ウッド・チェンジ

日本は世界でも有数の森林があります。そのうち約4割が人によって植えられた人工林ですが、これらの木はすでに成長し、木材として使える資源量は年々ふえています。このような森林があるにもかかわらず、外国産の安い木材を大量に輸入して使い、林業を仕事とする人がへってしまいました。人工林を植えた後は、間伐などを行って管理し、成長したらとって使い、また木を植える、というサイクルを行う必要があります。しかし、現在はこのサイクルが行われずに放置され、あれた人工林がふえてしまっています。

「ウッド・チェンジ」とは、身の回りのものを木に変えたり、木を暮らしの中に取り入れたり、たてものを建てたりするとき木を使うなど、日本の木材の利用をして持続可能な社会へ変わるための行動のことです。

身近なものを日本産の木材に変えることは、森林を守り育て、世界の森林破壊を防ぐことにつながっていきます。



ウッドチェンジ・ロゴマーク

野生生物の絶滅

地球上にはたくさんの生き物がいます。このたくさんの生き物たちのゆたかな個性とつながりのことを「生物多様性」と言います。地球に住む生き物は全部で約3,000万種類ともいわれますが、現在は1年間に約4万種もの生き物が絶滅し、「第6の大量絶滅」とよばれています。このスピードは自然のじょうたいの1,000倍以上とも言われます。日本でも、絶滅のおそれがあるとされる「絶滅危惧種」は今もふえ続けています。

原因

生物多様性の減少は、主にわたしたち人間の活動が原因となっています。田畑や農場、住む場所を広げるために、野山を切り開く、ひがたや砂はま、海をうめ立てるなど、自然の環境を人間の手によって大きく変え、生き物が住む場所をうばっています。商品にするためにむやみに生き物をつかまえたり、もともと住んでいた生き物にえいきょうをあたえる他の地域の生き物を持ちこんだりするのも、すべて人間の活動によるものです。また、地球温暖化や気候変動、大気汚染や水質汚染などの環境破壊は、わたしたちの生活だけでなく、動植物にも大きなえいきょうをあたえています。

えいきょう

■生物多様性が失われる



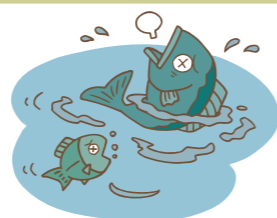
対策

■自然と生き物にやさしい生活をする

- 野生生物をむやみにつかまえることになる商品を買わない。
- ペットや外来種を自然のなかに放さない。
- 野生の生き物をきずつけたり、持って帰ったりしない。
- 生き物が住む場所をよごさない。

■自然や生き物について知る

- さまざま自然や生き物にふれる。
- 身近な自然や生き物を観察する。



外 来 種

外来種とは、もともとその地域に生息していなかったにも関わらず、人間の活動によってほかの地域から来た動植物のことです。外来種の中には、農作物や家畜、ペットのように、わたしたちの生活にかかせないものもあります。一方で、「侵略的外来種」とよばれ、持ちこまれた地域の自然環境や生物多様性に大きなえいきょうをあたえるものもあります。外来種による被害を予防するためには、わたしたちがきちんとルールを理解して守ることが大切です。

■外来種があたえるえいきょう

- もともと住んでいた生き物(在来種)を食べる。
- 在来種が住む場所やえさをうばってしまう。
- 毒をもっていたり、人間をきずつけたりする。
- 農林水産物を食べ、畑などをあらす。

■被害の予防

- 悪いえいきょうをあたえる可能性があるものを他の地域に入れない。
- ペットや育てている植物をすてない。
- 外来種を他の地域にひろげない。

海洋ごみ(マイクロプラスチック)

海洋ごみが世界中で問題になっています。海洋ごみとは、海岸に漂着したり、海をただよったり、海底にじずんだりしているごみで、特に問題となっているのが、プラスチックごみです。プラスチックは自然の力で分解されるまで長い時間がかかるため、何百年間も海の中に残ります。このままでは、30年後には海の生き物よりプラスチックごみの量が多くなってしまおうと言われています。



出典: UN World Oceans Day

また、プラスチックの中でも5ミリメートル以下のマイクロプラスチックも大きな問題となっています。化学物質がプラスチックに着いていたり、海をただよ間に着いたりすることもあるため、有害物質をふくむマイクロプラスチックも少なくありません。マイクロプラスチックは回収がむずかしく、生き物や生態系に大きなえいきょうをあたえる可能性があります。

原因

まちや川でのポイ捨てや風でとばされてしまっただけでなく、正しくすてられなかったごみが主な原因となっています。海のごみの多くは陸地から川に運ばれ、海に流れ出たものです。こうして流れ出たプラスチックごみは世界の海にすでに約1億5千万トン、さらに約800万トンが毎年海に流入され続けているといわれています。

こうして、正しく処理されなかったプラスチックごみは、太陽の光や水などの力で分解されて細くなり、マイクロプラスチックとして海をただよったり、海岸の砂にまざったりしてしまうのです。



えいきょう

■海の生き物がけがをしたり、死んでしまったりする

■海産物を通して食べることで、体に悪いえいきょうをあたえる可能性がある

対策

■ごみはせきんに持って処分する

- ポイ捨てをしない。
- ごみを出すときは風でとばされないようにする。
- 市のルールを守ってごみを分別する。

■使いすてプラスチックの使用をへらす

- レジぶくろ、使いすてのスプーンやフォークはことわる。
- マイバックや水筒を持ち歩く。
- つめかえ容器を使う。

■清掃活動に参加する

■リサイクルする

